仏教壮年の声

安芸教区　評議員　沖段琢磨

昨年浄土真宗本願寺派仏教壮年会連盟、安芸教区の評議員に任命され、評議員会において組織拡充委員会の委員に委嘱されました。

コロナ禍で安芸教区の仏教壮年会連盟では、予定されていたほとんどの事業が中止となる中、昨年度は奉仕作業と理事・幹事研修会を行うことができました。

唯一の研修会講師は当教区教務所長の榮俊英師で、前半は「仏教壮年会のはじまり」と題し、「親鸞聖人のみ教えをよりどころに阿弥陀如来の本願名号を聞信して念仏申す同信の朋の集まりである」と仏教壮年会組織の始まった経緯の説明があり、後半は「次世代へのご縁づくり」として仏法との出遇いや、仏法とのご縁を恵まれた「出遇い・言葉」などを次世代へ伝えるご縁づくりの講義がありました。また私にできることでは「阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しくわかりやすく伝え、そのお心にかなうよう私たち一人ひとりが行動する」とお示しいただいた、ことなどのお話をいただき、大変わかりやすく実りある研修会となりました。

さて、組織拡充委員会の取組として、私は「仏教壮年会は誰のための、何のための仏壮か？」を考えてみると、念仏に生かされる自身の喜びもあると思いますが、若年層の寺離れや門信徒の減少などで寺院の存続が危ぶまれる中、住職と門徒の相互信頼により寺院運営活動を活発化させることが必要で、その中心的役割が仏教壮年会であり、各寺院に仏教壮年が必要なのだと思います。お寺と、危機感を共有していきたいものです。